

安全データシート

作成日 2014年4月23日
改訂日 2023年4月26日

1. 製品名及び会社情報

| | |
|------------|---|
| 製品名・品番 | パイオラン™テープ 梱包用 K-10-CL コアレステープ K-10-CL クロスカットテープ（クリア） |
| 供給者の会社名称 | ダイヤテックス株式会社 |
| 住所 | 938-0013 富山県黒部市沓掛2000番地 |
| 担当部門 | 品質保証グループ |
| 電話番号 | 0765-52-1732 |
| FAX番号 | 0765-54-4866 |
| ホームページアドレス | https://www.diatex.co.jp/ |
| 緊急連絡電話番号 | 東京本社: 03-3254-3222 大阪支店: 06-6222-8580 |

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

成形品であり、GHS区分に該当しない。

GHSラベル要素

情報なし

3. 組成及び成分情報
化学物質・混合物の区別

成形品

| 化学名又は一般名 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|---------------|----------|-----|-----------|
| | 化審法 | 安衛法 | |
| ポリエチレン | (6)-1 | 既存 | 9002-88-4 |
| アクリル酸エステル共重合物 | 不明 | 不明 | 非開示 |

4. 応急措置
吸入した場合

加熱溶融時(焼却時など)に発生する蒸気、ガスを大量に吸入した場合は、新鮮な空気の場所に移動し、異常が認められる場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

眼に異常が認められる場合は、医師の手当てを受ける。飲み込んだ場合は直ちに吐き出させ、異常が認められる場合は、医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置
適切な消火剤
使ってはならない消火剤
火災時の特有の危険有害性水、粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂
情報なし

消火方法

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
消火作業は、風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
関係者以外は安全な場所に退去させる。
移動可能な製品は、速やかに安全な場所に移す。消火活動を行う者の特別な
保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

| | | | |
|---|---|-------------------------|---|
| 6. 漏出時の措置 | | | |
| 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置 環境に対する注意事項 | | 該当なし | 漏出する場合は必ず回収し、環境中に放置してはならない。 また、回収したものの処分は関連法規に従い、産業廃棄物処理 業者に委託する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法 及び機材 二次災害の防止策 | | 情報なし | 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備 する。 |
| 7. 取扱い及び保管上の注意 | | | |
| 取扱い | 技術的対策 | | 特に危険性及び有害性はない。 |
| 保管 | 保管条件 | | 直射日光、暖房器具などの熱源を避け、涼しい所に保管する。 |
| 8. ばく露防止及び保護措置 設備対策 | | | |
| 保護具 | 呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具 | 特に必要なし | 必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。 必要に応じて、適切な保護手袋を着用すること。 必要に応じて、適切な眼の保護具を着用すること。 必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。 |
| 9. 物理的及び化学的性質 | | | |
| 物理状態 | | | |
| 形状 | | 固体（ロール状） | |
| 色 | | クリア（無色） | |
| 臭い | | データなし | |
| 融点／凝固点 | | ポリエチレン アクリル酸エステル共重合体 | 100～145℃ データなし |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | | データなし | |
| 可燃性 | | あり | |
| 爆発下限界 及び 爆発上 限界／可燃限界 | 下限 上限 | データなし データなし | |
| 引火点 | | ポリエチレン アクリル酸エステル共重合体 | データなし データなし |
| 自然発火点 | | ポリエチレン アクリル酸エステル共重合体 | 400℃＜（推定） データなし |
| 分解温度 | | データなし | |
| pH | | データなし | |
| 動粘性率 | | データなし | |
| 溶解度 | | 水に不溶 | |
| n-オクタノール／水分配係数 | | データなし | |
| 蒸気圧 | | データなし | |
| 比重（相対密度） | | ポリエチレン アクリル酸エステル共重合体 | 0.91～0.97 データなし |
| 相対ガス密度 | | データなし | |
| 粒子特性 | | データなし | |

| | | |
|------------------|--|---|
| 10. 安定性及び反応性 | | |
| 反応性 | | 水との反応性、自己反応性、爆発性はない。 |
| 化学的安定性 | | 通常の取り扱い状態において安定。 |
| 危険有害反応可能性 | | 通常の取り扱い状態では、危険な有害反応は生じない。 |
| 避けるべき条件 | | 火気、熱源 |
| 混触危険物質 | | 情報なし |
| 危険有害な分解生成物 | | 情報なし |
| 11. 有害性情報 | | |
| 急性毒性 | 経口 | 知見なし |
| | 経皮 | 知見なし |
| | 吸入 | 知見なし |
| 皮膚腐食性／皮膚刺激性 | | 皮膚に貼り付けると、皮膚の弱い人またはアレルギーの人によっては、かぶれる場合がある。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | | 眼刺激性 物理的な刺激 |
| 呼吸器感作性 | | 知見なし |
| 皮膚感作性 | | 知見なし |
| 生殖細胞変異原性 | | 知見なし |
| 発がん性 | | 知見なし |
| 生殖毒性 | (生殖毒性) | 知見なし |
| | (生殖毒性・授乳影響) | 知見なし |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | | 知見なし |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | | 知見なし |
| 誤えん有害性 | | 知見なし |
| 12. 環境影響情報 | | |
| 水生環境有害性 短期(急性) | | 知見なし |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | | 知見なし |
| 生態毒性 | | 知見なし |
| 残留性・分解性 | | 知見なし |
| 生体蓄積性 | | 知見なし |
| 土壌中の移動性 | | 知見なし |
| オゾン層への有害性 | | 知見なし |
| 13. 廃棄上の注意 | | |
| 製品及び包装資材の廃棄 | | 関連法規に従い、廃棄物処理業者にて処理する。 |
| 14. 輸送上の注意 | | |
| | | 容器・包装は破損のないことを確かめ、落下、損傷のないよう積込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 |
| 国際規制 | 海上規制情報 | 非該当 |
| | Marine Pollutant | Not applicable |
| | Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code | Not applicable |
| | 航空規制情報 | 非該当 |
| 国内規制 | 陸上規制 | 非該当 |
| | 海上規制情報 | 非該当 |
| | 海洋汚染物質 | 非該当 |
| | MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| | 航空規制情報 | 非該当 |
| 緊急時応急措置指針番号 | | なし |

15. 適用法令

| | |
|--|---|
| 消防法 | 指定可燃物 (合成樹脂類) |
| 労働安全衛生法 | 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) | 非該当 |
| 有機溶剤中毒予防規則 | 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) の審査及び製造の規則に関する法律 | 非該当 |
| 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律 | 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | 非該当 |
| 有害物質を含有する家庭用品の規則に関する法律 | 非該当 |
| 船舶安全法 | 非該当 |
| 航空法 | 非該当 |
| 輸出貿易管理令 | 別表第1の1項～15項までは非該当 (対象外) |
| キャッチオール規則 | 別表第1の16項の関税定率法第39類 「プラスチック及びその製品」に該当 |

16. その他の情報

本安全データシートは、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成されておりますが、いかなる保証をなすものではございませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本安全データシートの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて改訂されることがあります。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上ご利用ください。

参考文献

- ・JIS Z 7253 (2019)
- ・その他の文献・・・原材料／製品メーカーSDS